

第四次福山市総合計画策定のための基礎調査 報告書概要編

2005年(平成17年)11月

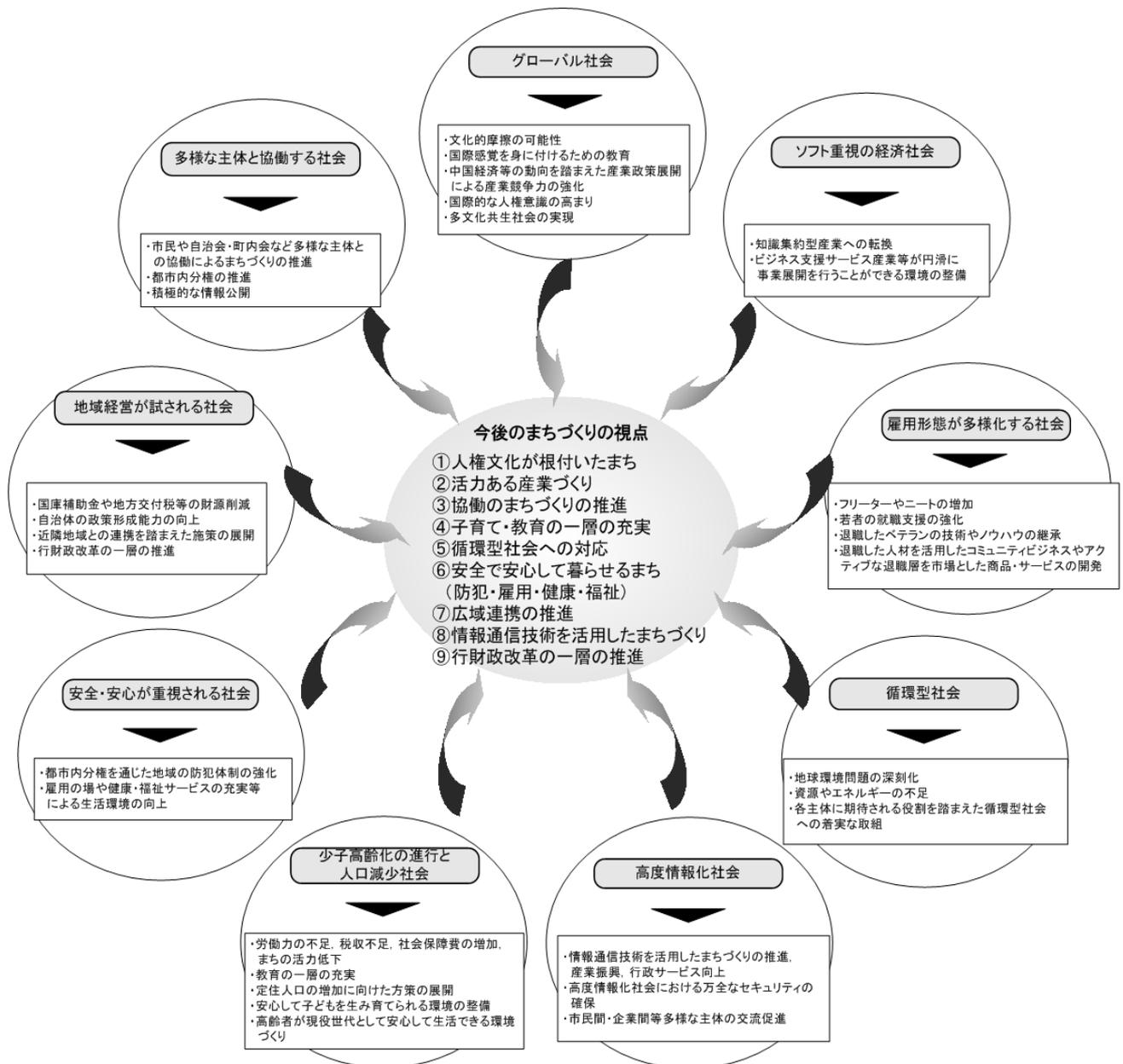
福 山 市

1. 今後の時代潮流を踏まえた社会展望

今後の時代潮流として、「グローバル社会」や「ソフト重視の経済社会」など9つの視点で社会展望を整理した。

これらの社会展望の下で生じる様々な課題への対応として、今後、「①人権文化が根付いたまち」「②活力ある産業づくり」「③協働のまちづくりの推進」「④子育て・教育の一層の充実」「⑤循環型社会への対応」「⑥安全で安心して暮らせるまち」「⑦広域連携の推進」「⑧情報通信技術を活用したまちづくり」「⑨行財政改革の一層の推進」といった視点に留意しながら、都市間競争に打ち勝つまちづくりを展開していくことが求められる。

図表 1 社会展望から見た「今後のまちづくりの視点」

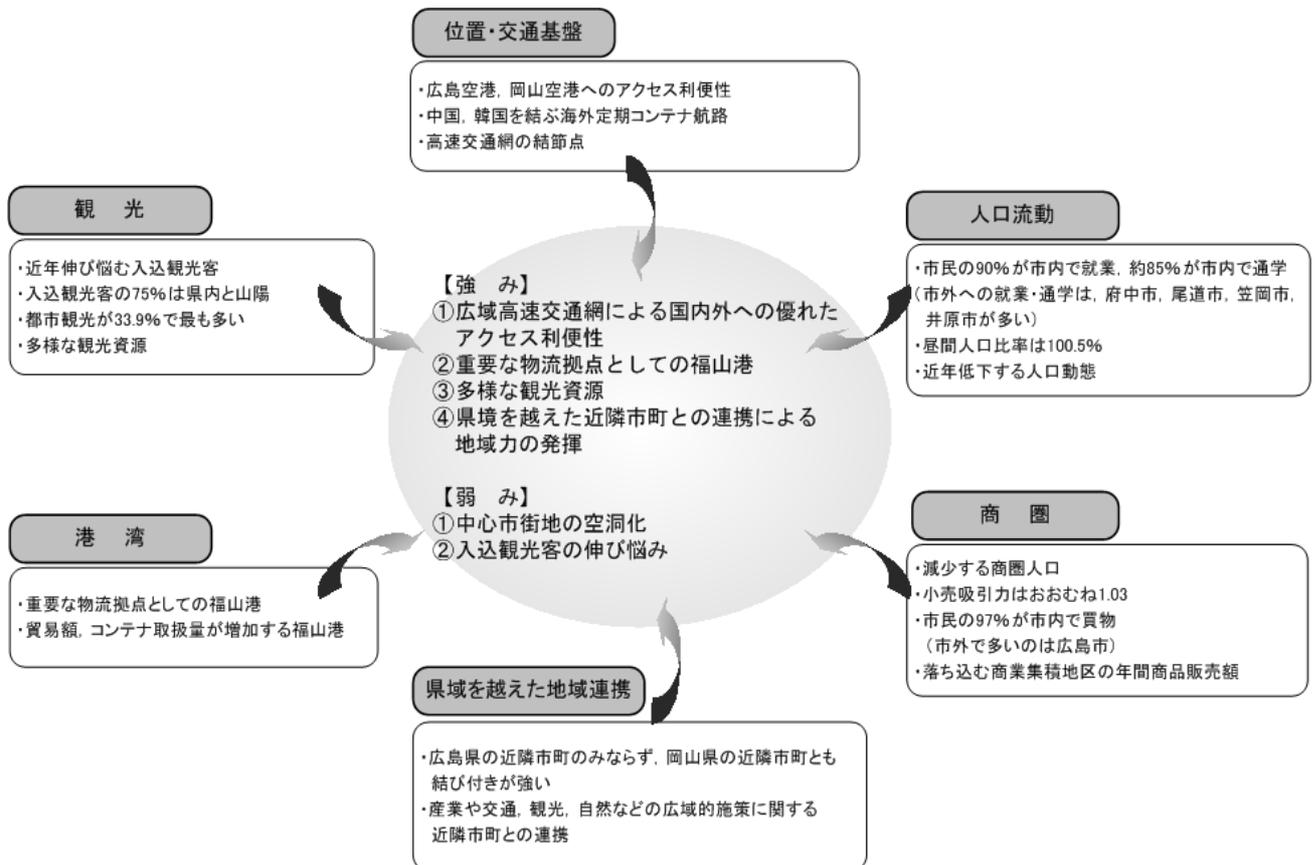


2. 広域的な視点から見た福山市の位置付け

位置・交通基盤や人口流動などの広域的な視点から見れば、福山市の強みとしては、「広域高速交通網による国内外への優れたアクセス利便性」や「重要な物流拠点としての福山港」「多様な観光資源」「県境を越えた近隣市町との連携による地域力の発揮」が挙げられ、これらの強みを活用したまちづくりを積極的に推進していくことが求められる。

一方、弱みとしては、「中心市街地の空洞化」や「入込観光客の伸び悩み」が挙げられる。こうした弱みの克服に向けて、現在推進している駅周辺地区の整備や市街地再開発事業を推進するとともに、豊富な観光資源を活用して、都市的魅力を向上させることが必要である。

図表 2 広域的な視点から見た福山市の位置付けと「強み・弱み」



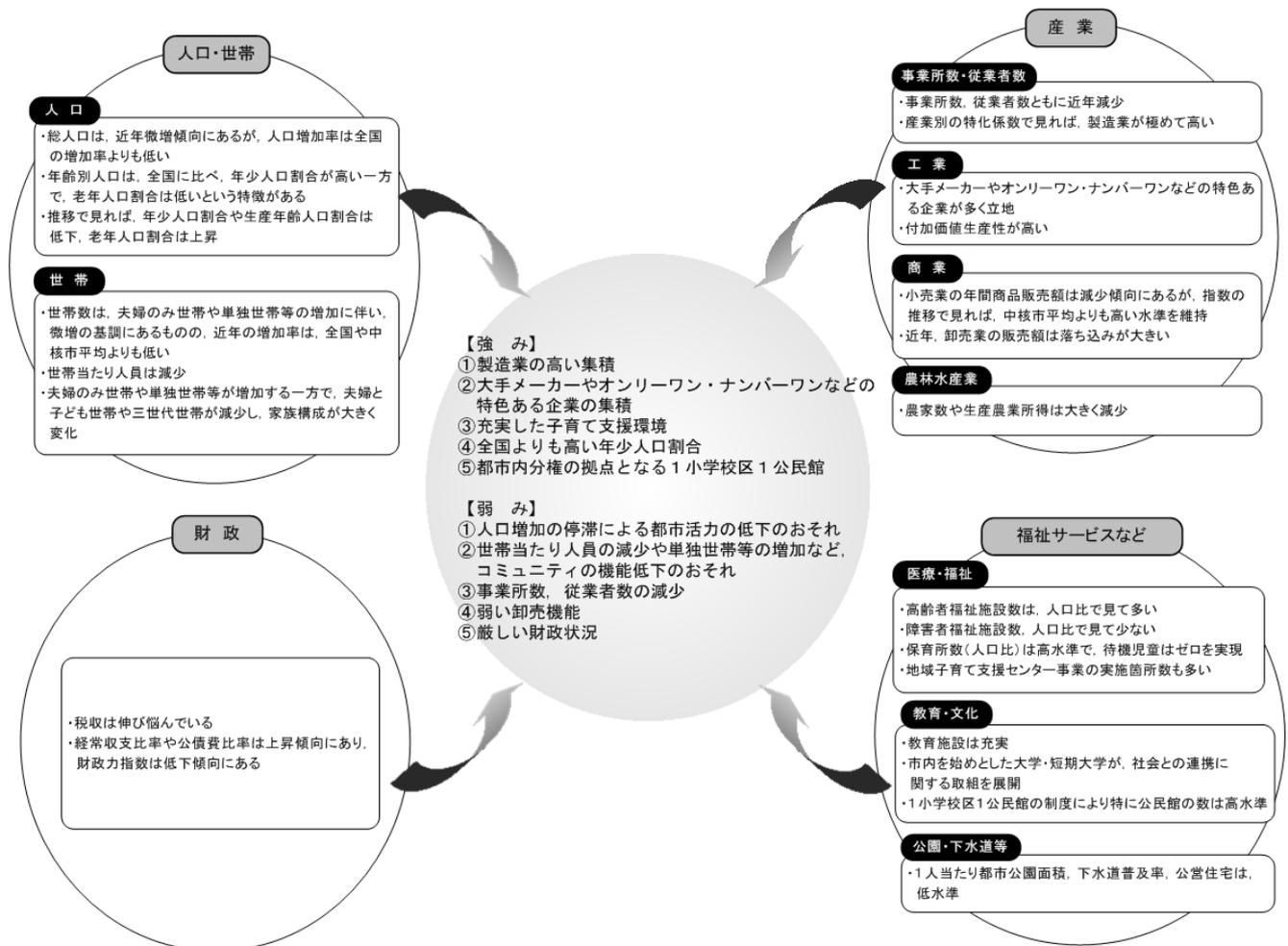
3. 福山市の社会経済状況の動向

福山市の社会経済状況の動向を、人口・世帯、産業、福祉サービスなどの各側面から整理した。

この結果、福山市の強みとしては、「高い製造業の集積」「大手メーカーやオンリーワン・ナンバーワンなどの特色ある企業の集積」「充実した子育て支援環境」「全国よりも高い年少人口割合」「都市内分権の拠点となる1小学校区1公民館」などが挙げられる。中でも製造業の強さや子育て支援環境・公民館の充実は他都市と比較しても、際立った福山市の特徴といえ、今後のまちづくりにおいて大いに活用していくことが求められる。

一方、弱みとしては、「人口増加の停滞による都市活力の低下のおそれ」「世帯当たり人員の減少や単独世帯等の増加など、コミュニティの機能低下のおそれ」「事業所数、従業者数の減少」「弱い卸売機能」「厳しい財政状況」が挙げられ、これらに対処していく必要がある。

図表 3 福山市の社会経済状況の動向から見た「強み・弱み」



4. 将来フレーム

(1) 人口

総人口は、2003年（平成15年）の46.2万人をピークに減少に転じ、2016年（平成28年）には45.2万人になることが予想される。

また、年齢三区分別人口割合は、老年人口割合が上昇する一方で年少人口割合や生産年齢人口割合が低下することが見込まれるため、高齢者福祉ニーズの増加や子育て支援への対応が求められる。

(2) 世帯

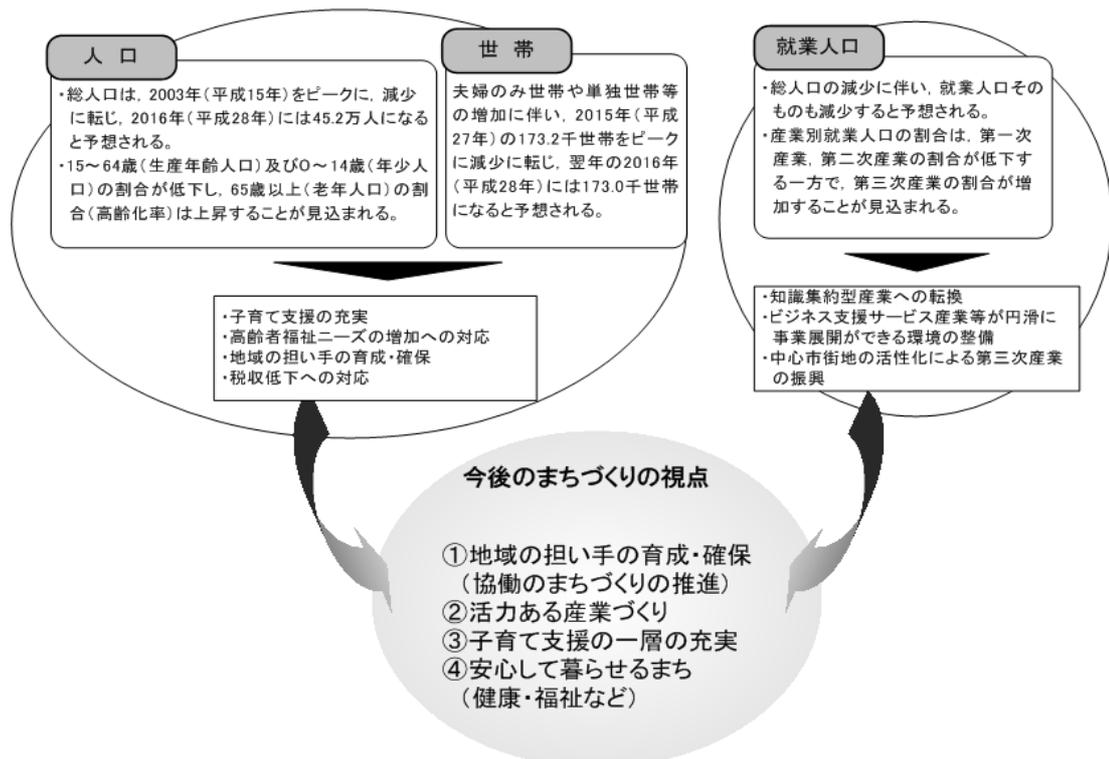
世帯数は、夫婦のみの世帯や単独世帯等の増加により、しばらくは微増するが、2015年（平成27年）の173.2千世帯をピークに減少に転じ、2016年（平成28年）には173.0千世帯になると見込まれる。

また、総人口や世帯数の減少により、一人暮らしの高齢者の増加や地域のコミュニティを担う人材の減少などが想定されるため、安心して暮らせるまちづくりの推進や協働のまちづくりに向けた地域人材の確保・育成が求められる。

(3) 就業人口

総人口の減少に伴い、就業人口そのものも2016年（平成28年）には220.5千人に減少することが予想される。産業別就業人口割合では、第一次産業及び第二次産業の就業者割合が低下し、第三次産業の就業者の割合が上昇することが見込まれるため、今後は、知識集約型産業への転換やビジネス支援サービスなどの第三次産業の振興に向けた方策により活力ある産業づくりを進めていくことが必要である。

図表 4 将来フレームの推計結果から見た「今後のまちづくりの視点」



5. 市民の問題意識とニーズ

(1) 福山市への定住意向について

- ・ 「これからも福山市に住み続けたい」とする回答者が8割を超える。
- ・ 引越したいとする回答者に対してその理由を質問したところ、「福祉や医療サービスが現在よりも充実した地域に住みたいから」が約2割で最も多い。

(2) まちづくりに対する関心や福山市らしさなどについて

① まちづくりに対する関心

- ・ 「関心がある」「少し関心がある」を合わせて8割弱に達する。
- ・ まちづくりに関心がないとする回答者では、「市民の意見が反映されにくいと思うため」(35.7%)や「まちづくりを考える機会がないため」(26.2%)などの理由が多い。

② 福山市らしさ

- ・ 「ばら・ばら祭」という意見が約6割で最も多く、次いで、「鞆の浦・鯛網」(31.6%)、「福山城・城下町」(25.3%)が2割を超え、その他、「気候のよさ」(16.8%)、「鉄・製鉄所」(12.5%)、「芦田川」(11.3%)などが比較的多い。

(3) これまでの10年間の政策体系別評価(行政サービスなどに対する満足度・重要度)

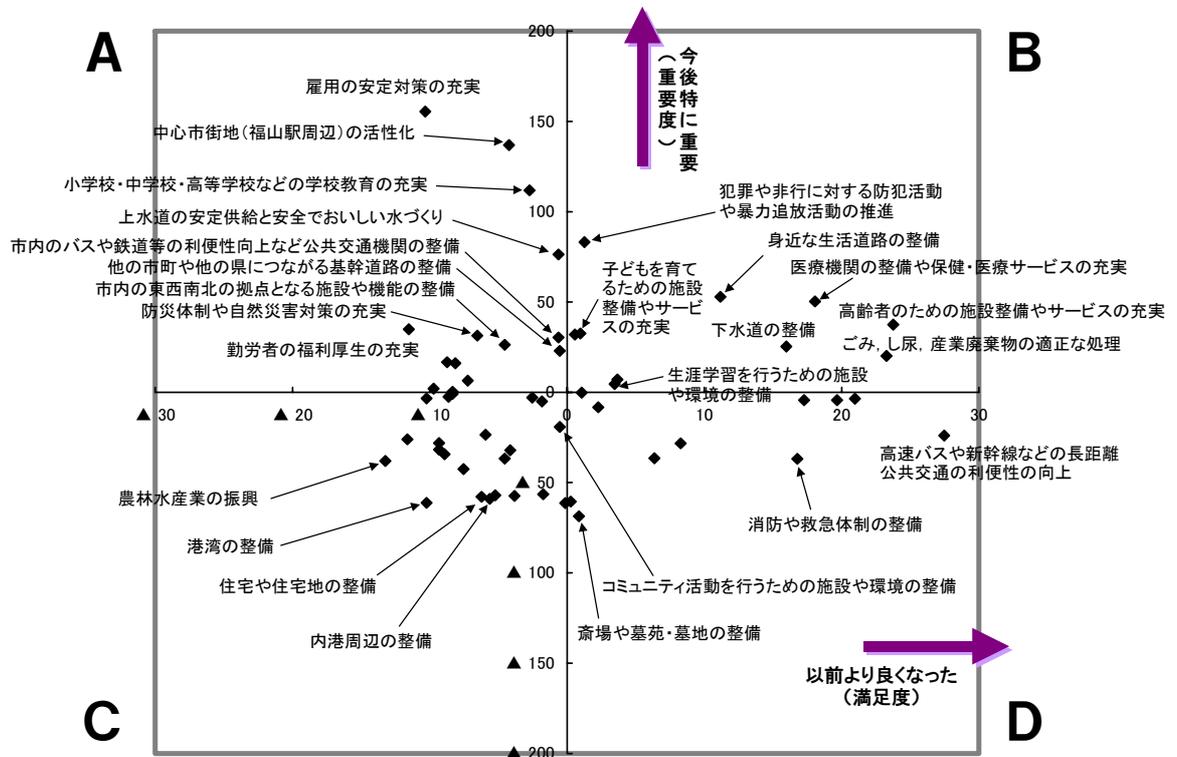
① 政策体系別に見た「以前より良くなったもの」と「今後重要なもの」

- ・ 施策の柱ごとに、「以前より良くなったもの」と「今後重要なもの」として最も割合の高かったものを抽出すれば以下のとおり。

施策の柱	以前より良くなったもの	今後重要なもの
心ふれあい健やかに安心して暮らせるまち	高齢者のための施設整備やサービスの充実	医療機関の整備や保健・医療サービスの充実
自然とともに生きるまち	ごみ、し尿、産業廃棄物の適正な処理	河川や水路、ため池などの水質浄化
コミュニティの形成・快適な生活環境の整備	市の広報などによる市民への情報提供の充実	上水道の安定供給と安全でおいしい水づくり
安全な生活環境の確保	消防や救急体制の整備	犯罪や非行に対する防犯活動や暴力追放活動の推進
個性を育む教育・文化のまち	文化活動を行うための施設や文化環境の整備	小学校・中学校・高等学校などの学校教育の推進
地域の資質を活かした産業のあるまち	産業の基盤となる工業団地、流通団地などの整備	雇用の安定対策の充実
発展する都市圏の中核となるまち	高速バスや新幹線などの長距離公共交通の利便性の向上	中心市街地（福山駅周辺）の活性化

② 市民満足度と重要度から見た位置付け

- ・ 「A：満足度が低く重要度が高い」「B：満足度も重要度も高い」「C：満足度も重要度も低い」「D：満足度が高く重要度は低い」の位置付けについて整理を行った結果は、次のとおり。



(注) 満足度や重要度の高低から見て、特に大きい又は小さい行政サービスなどについて名称を表示。

③ 住みやすさに関する総合的な満足度

- ・ 満足とやや満足の合計 (44.5%) が、やや不満と不満の合計 (23.7%) を大きく上回る。

④ 今後の重点的な取組(福山市の将来像, 重点的に行うべき取組)

- ・ 今後のまちづくりを行う上での将来像や考え方については、「安全・安心」が約4割で最も多く、次いで、「健康・福祉」(32.4%), 「活力・にぎわい」(28.1%), 「子育て・教育」(26.7%), 「自然・環境」(22.3%) が多い。
- ・ 今後の福山市のまちづくりにおいて重点的に行うべき取組としては、「高齢者福祉の充実」が38.9%で最も多い。次いで、「学校教育」(32.7%) や「ごみの減量化・リサイクルの推進」(27.5%), 「保健・医療の充実」(26.4%), 「雇用の場の確保」(25.7%) が多い。

(4) 家庭の情報化, 将来の不安について

① 家庭の情報化

- ・ 家庭で利用している情報通信機器は、「パソコン（インターネットに接続）」や「携帯電話・PHS（通話のみ）」で5割弱となっており、「携帯電話・PHS（インターネットに接続）」は3割を超える。
- ・ 家庭でのインターネットの利用状況については、「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」と回答した人は約7割である。

② 将来の不安

- ・ 「とても不安である」と「やや不安である」の合計でおよそ8割に達する。
- ・ 不安の内容としては、半数が「年金などの国の社会保障制度」、「自分の健康や介護」や「家族の健康や介護」がおよそ3割である。ただし、各年代によって、それぞれ不安の内容が異なる。

(5) 地域の活動, 市民と行政の役割分担について

- ・ 回答者の65%が何らかの地域の活動に参加しており、中でも「自治会・町内会などの活動」が約5割で最も多い。
- ・ 市民参加のまちづくりを活発にする方法としては、「まちづくりに関する情報を市民に積極的に提供する」が約6割と多い。
- ・ 参加したいまちづくりの内容については、「高齢者・障害者の福祉」（28.4%）や「地域の安全や防災」（24.9%）、「自然保護・環境問題」（24.7%）、「スポーツ・レクリエーション」（21.0%）などで比較的多い。
- ・ まちづくりの参加の方法については、「まちづくりについての提案や意見を提出する」といった政策の企画段階を選択した人が36.8%で最も多く、次いで、「事業の実施（技術や特技の提供など）に参加する」（22.3%）が多い。

(6) 福山市が目指すべき将来像やまちづくりの在り方などに関する自由意見

- ・ 「道路の整備・充実」や「学校教育の向上」、「効率的な財政運営」、「駅前整備、市街地の整備」、「河川などの自然環境、景観の保全」、「防犯対策の強化など安全なまちづくりの推進」、「高齢者福祉サービスや施設の充実」などの意見が多い。

6. 第三次福山市総合計画の総括

第三次福山市総合計画に基づき実施した計画期間中の施策や事業について、市民アンケート調査結果で明らかになった市民満足度・重要度と照合することにより、第三次総合計画の検証を行った。

具体的には、第三次福山市総合計画期間中（1995年度（平成7年度）～2006年度（平成18年度））において、実施計画へ計上した事務事業を施策体系別に整理し、同じく市民アンケート調査において施策体系別に質問した市民満足度・重要度との照合を行い、次期総合計画策定への参考とするものである。

検証の結果、計画期間中の事業については、社会情勢の変化等により一部遅延している事業もあるが、各分野においておおむね達成されており、50万都市にふさわしい都市機能は着実に整いつつある。

○計画期間中に完了した主な事業としては、

北部・東部市民センター建設、男女共同参画センターの整備、福山市民病院新館建設・救命救急センター設置、総合保健福祉センター（福山すこやかセンター）建設、保健センターの整備、高齢者生活福祉センター（生活支援ハウス（内海町））、ごみ減量化施設（福山クリーンセンター）整備、福山市ごみ固形燃料工場建設、西部清掃工場整備、西部斎場の整備、福山北産業団地造成、内港第一土地区画整理事業・都市拠点総合整備（人口地盤、多目的広場）、緑町公園整備、芦田川大橋、高屋川左岸線他道路整備、松永地区クリーク整備、農業集落排水（服部地区）、市立福山中学校・高校（中高一貫教育校）整備、ふくやま文学館建設、緑町公園屋内競技場（ローズアリーナ）建設、新市スポーツセンター建設などが挙げられる。

○主な継続事業・今後見込まれる主要事業としては、

（仮称）西部市民センター建設、福山駅周辺地区整備、中央公園地区整備、伏見地区・東桜町地区市街地再開発事業、水呑三新田・中新涯土地区画整理事業、主要幹線道路網の整備、港湾整備（箕沖他）、田尻漁港整備、漁業集落環境整備事業（走島）、市営山手町住宅建設のほか、旧内海町・旧新市町・旧沼隈町・神辺町との合併建設計画に係る諸事業が挙げられる。

○今後留意すべき事項としては、

中心市街地（福山駅周辺）の活性化，周辺地域の拠点となる施設や機能の整備，基幹道路の整備，上水道の安定供給・安全でおいしい水づくり，雇用の安定や勤労者対策，公共交通対策，学校教育の充実，防災対策，福祉・健康など，市民の満足度が低く重要度が高いもの（位置付け「A」）や，満足度も重要度も高いもの（位置付け「B」）を中心に，ハード事業・ソフト事業を効果的に組み合わせて今後も引き続き事業を実施していく必要がある。

なお，実施に当たっては，地方分権の流れや三位一体の改革など，厳しい財政状況での実施も予想されるため，事業の選択と重点化を図りつつ，行政と民間との役割分担や市民との協働の視点にも留意する必要がある。

そのほかに留意すべき事項としては，福山市では高度成長時代に急速な社会資本整備を行っており，今後，既存の住宅や保育所，教育施設を始めとする公共施設の老朽化に伴う維持修繕経費の増が考えられ，施設の延命化，統廃合を含めた検討が必要である。

また，合併の進展に伴い，合併地域との一体化を図るための交通アクセスの整備を始め，地域拠点施設，教育施設や道路，下水道等の生活基盤整備など合併建設計画に基づき，総合的に整備していく必要がある。

7. 第四次福山市総合計画策定に向けたまちづくりの視点

1では、「今後の時代潮流を踏まえた社会展望」として、今後のまちづくりを進めていく上で念頭においておかなければならない社会経済情勢をグローバル社会やソフト重視の経済社会など9つの視点で整理し、2や3では福山市の特性として、「広域的な視点から見た福山市の位置付け」及び「福山市の社会経済状況の動向」を分析し、優れたアクセス利便性や物流拠点などの立地特性、製造業の高い集積や充実した子育て支援環境などの福山市の強みを抽出するとともに、中心市街地の空洞化や全国的な傾向でもある人口増の停滞に伴う都市活力の低下の懸念などから、今後のまちづくりにおいては、これらの福山市の強みを活かすとともに、弱みを克服していくことが求められることを明らかにした。

続いて4では、人口や世帯等の将来フレームについて推計を行った。この結果、総人口は2003年（平成15年）をピークに減少に転じ、2016年（平成28年）には45.2万人になるとともに、15～64歳（生産年齢人口）及び0～14歳（年少人口）の割合が低下し、65歳以上（老年人口）の割合（高齢化率）が上昇することが予想された。

さらに、5では、市民アンケートを実施することにより、これまでの10年間の行政サービスなどに対する満足度や重要度並びに今後の重点的な取組など、市民の問題意識とニーズについて整理し、6では、第三次福山市総合計画の期間中に実施計画に基づき実施した事業を市民アンケートの結果と照合することにより、第三次福山市総合計画の総括を行った。計画された事業についてはおおむね達成されており、50万都市にふさわしい都市機能は着実に整いつつあることを確認するとともに、市民からの評価を踏まえ、今後も引き続き実施していくべき事業や施策の方向性を整理した。

以上の基礎調査をふまえ、第四次福山市総合計画策定に向けた「まちづくりの視点」として、次の点を抽出した。

■基本的な課題

- ・人口減少時代の中、拠点性と求心力を備えたまちづくり
- ・健康で生き生きと安心して暮らせるまちづくり

■まちづくりの視点

○個性を育む教育・文化のまち

- ・充実した教育環境によるまちづくり
- ・子どもを健やかに育てられる環境づくり
- ・人権文化が根付いたまち

○環境と共生するまち

- ・各主体に期待される役割をふまえた循環型社会への取組
- ・地球にやさしい環境づくり
- ・自然環境と共生するまち

○誰もが安全で安心して暮らせるまち

- ・防犯対策の充実
- ・総合的な防災対策の充実
- ・高齢者福祉・障害者福祉の充実
- ・保健・医療の充実

○活力とにぎわいのあるまち

- ・ 中心市街地のにぎわいづくり
- ・ 特色ある企業集積を活かした産業振興
- ・ 福山らしさを活かした都市ブランドの創出と発信
- ・ 広域的な連携と交流の促進
- ・ 雇用の場の確保

○市民と共につくるまち

- ・ 協働によるまちづくりの推進
- ・ コミュニティ機能の強化
- ・ 都市内分権の推進

図表 5 第四次福山市総合計画策定に向けた「まちづくりの視点」

